

<キャベツ> ネコフセンチュウ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。

<キャベツ> ナメクシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ナメクリーン3		収穫14日前まで	2回以内	株元散布

<キャベツ> アサミマシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	育苗期後半	1回	灌注

<キャベツ> アブラムシ類

- モザイク病防除のため、発芽初期から有翅アブラムシの防除に努める。
- 夏期乾燥が続くと発生が多くなるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ粒剤5	I:4A	育苗期後半	1回	散布
アドマイヤーフロアブル	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫3日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫3日前まで	2回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫14日前まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	5回以内	散布

<キャベツ> キスジノミハムシ

- 高温乾燥が続くと発生が多くなるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エルサン乳剤	I:1B	収穫14日前まで	2回以内	散布

<キャベツ> コナガ

- 発生回数が多く、春から初冬まで発生するので、早期防除に努め、幼苗期の被害には特に注意する。
- 心葉及び葉裏に十分薬液がかかるように努める。
- コナガは抵抗性が発達し易いため、RACコードが同じ薬剤を連用しないよう、ローテーション散布を心がける。
- ボタニガードESの使用に当たっては、「生物的防除法 4. 天敵資材による防除方法」の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫3日前まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫14日前まで	2回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	2回以内	散布

プレオフロアブル	I:UN	収穫7日前まで	2回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
ミネクトデュオ粒剤	I:4A・I:28	は種時	1回	散布
ミネクトデュオ粒剤	I:4A・I:28	は種覆土後～育苗期後半	1回	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	5回以内	散布
モベントフロアブル	I:23	収穫7日前まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プリンス粒剤	I:2B	は種時～定植前	1回	本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する。
ミネクトデュオ粒剤	I:4A・I:28	定植時	1回	株元散布
アクタラ粒剤5	I:4A	は種前	1回	床土混和
ボタニガードES ※1	I:UNF	発生初期	-	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
サブリナフロアブル ※3	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤 ※2	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
デルフィン顆粒水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
トアローフロアブルCT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(はくさいを除く)」の登録薬剤

<キャベツ> ハイマダラノメイガ

1. 高温乾燥が続くと発生が多くなるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
エスマルクDF	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫3日前まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫7日前まで	2回以内	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫14日前まで	2回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
フローバックDF	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫7日前まで	3回以内	散布
ミネクトデュオ粒剤	I:4A・I:28	は種時	1回	散布
ミネクトデュオ粒剤	I:4A・I:28	は種覆土後～育苗期後半	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プリンス粒剤	I:2B	は種時～定植前	1回	本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する。
ダントツ粒剤	I:4A	は種時	1回	覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
ミネクトデュオ粒剤	I:4A・I:28	定植時	1回	株元散布
ダントツ粒剤	I:4A	育苗期後半	1回	株元処理
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和

プリンス粒剤	I:2B	は種前	1回	本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。
プレバゾンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注

<キャベツ> アオムシ

1. 野菜類のアオムシの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫3日前まで	3回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫7日前まで	2回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	5回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注

<キャベツ> ヨトウムシ

1. 幼虫の齢期が進むと薬剤に対する抵抗力が強くなるので早期発見、早期防除に努める。
2. ビニールの障壁を設けたり、溝を掘るなどして幼虫の侵入を防止する。
3. 老齢幼虫は捕殺に努める。
4. 野菜類のヨトウムシの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫3日前まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫7日前まで	2回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫7日前まで	2回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫7日前まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注

<キャベツ> ハスモンヨトウ

1. 幼虫の齢期が進むと薬剤に対する抵抗力が強くなるので早期発見、早期防除に努める。
2. ビニールの障壁を設けたり、溝を掘るなどして幼虫の侵入を防止する。
3. 老齢幼虫は捕殺に努める。
4. 施設等で育苗する場合は開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛込みを防ぐ。「物理的防除法4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。
5. 9月～10月に多発する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫7日前まで	2回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫7日前まで	2回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫7日前まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ベリマークSC	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
デルフィン顆粒水和剤 ※2	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

<キャベツ> シロイチモジヨトウ

1. 野菜類のシロイチモジヨトウの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫3日前まで	3回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布

<キャベツ> ネキリムシ類

1. 老齢幼虫が根元を切断する。定植時に被害が多いので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ダントツ粒剤	I:4A	育苗期後半	1回	株元処理
プレバソンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ヨーバルフロアブル	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注

<キャベツ> ウワバ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫7日前まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレバソンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
フローバックDF	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布

<キャベツ> タマナギンウワバ

1. 1卵ずつ葉裏に産卵され、幼虫は単独で葉裏にいることが多いので、発生に注意する。

2. 野菜類のタマナギンウワバの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフアーム乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫3日前まで	3回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	2回以内	散布

<キャベツ> オオタバコガ

1. 野菜類のオオタバコガの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクセルフロアブル	I:22B	収穫前日まで	3回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫7日前まで	2回以内	散布
プレバソンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布

<キャベツ> カブラハハチ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
プレバソンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注

<キャベツ> 萎黄病

1. ダイコン、ハクサイなどのアブラナ科野菜も品種によっては侵されるので、転作に当たっては注意する。

2. 発病場合は4～5年間キャベツの栽培をやめる。

3. 土壌温度は27～30℃の時に多発するので、夏まきのものに発病が多く9月末ころからまくものには少ない

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

<キャベツ> 株腐病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエツフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
セイビアーフロアブル20	F:12(E2)	収穫前日まで	3回以内	散布
モンガリット粒剤	F:3(G1)	定植前	1回	全面土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
----------	------	--------------	----	-----------------------

<キャベツ> 菌核病

1. ナタネや各種野菜を侵す菌核病と同じ菌によって発病する
2. 被害株に形成された菌核は土壌中で4～6年は生存する。
3. 菌核は直接菌糸をのばして感染源となる他、子う胞子を形成し、大量の子う胞子も放出する。
4. 子う胞子は気温約20℃で、大雨の後に日中の湿度が低下するような条件で放出されるので、この様な時期に薬剤を散布して植物体を保護する。
5. 苗床の用土は新しいものを用いる。
6. 被害株は菌核を残さないよう畑から取り除く。
7. 多発は場は連作を避け、イネ科作物やイモ類などに転作する。
8. ペノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフェットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
カンタスドライフロアブル	F:7(C2)	収穫7日前まで	2回以内	散布
スクレアフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
セイビアフロアブル20	F:12(E2)	収穫前日まで	3回以内	散布
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫3日前まで	2回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫3日前まで	3回以内	散布
バルコート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫7日前まで	6回以内	散布
ロブラル水和剤	F:2(E3)	収穫7日前まで	4回以内	散布
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	は種又は定植前	2回以内(但し、苗床では1回以内、本圃では1回以内)	全面土壌混和
ミニタンWG	F:BM02(BM)	すき込み時～定植前	-	全面散布土壌混和
パレード20フロアブル	F:7(C2)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ディ・トラベックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

<キャベツ> 黒腐病

1. 本病は種子伝染するほか、雨によっても伝染するので、苗は降雨を防ぐためビニールなどで被覆する。
2. 発病株が堆肥などとしてほ場に入らないよう注意する。
3. 発病は場はアブラナ科作物の連作は避ける。また、低湿地の栽培は避ける。
4. 銅水和剤は生育初期に薬害が出やすいので注意する。Zボルドー、ドイツボルドーAは結球期以降の散布は避ける。
5. 銅水和剤はクレフノン200倍を加用すれば、薬害が軽減される。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫7日前まで	4回以内	散布
カップパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫7日前まで	4回以内	散布
キノドーフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	-	-	散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
オリゼメート粒剤	F:P02(P2)	定植時	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
コサイド3000 ※2	F:M01(M)	-	-	散布

※1 上位作物群「結球あぶらな科葉菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

<キャベツ> 黒斑細菌病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布

※1 上位作物群「結球あぶらな科葉菜類」の登録薬剤

<キャベツ> 苗立枯病(リゾクニア菌)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フロンサイドSC	F:29(C5)	定植前	1回	全面土壌散布
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	は種又は定植前	2回以内(但し、苗床では1回以内、本圃では1回以内)	全面土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

パレード20フロアブル	F:7(C2)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
クロピクテープ	I:8B		1回	土壌くん蒸

<キャベツ> 軟腐病

1. 高温時には種したものや高温期に結球させる作型に発病が多いので注意する。
2. 発病地ではアブラナ科作物の連作や低湿地での栽培は避ける。
3. 銅水和剤はクレフノン200倍を加用すれば、薬害が軽減される。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
スターナ水和剤	F:31(A4)	収穫7日前まで	3回以内	散布
バリダシン液剤5	F:U18(U)	収穫7日前まで	5回以内	散布
マスタピース水和剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
コサイド3000 ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ドイツボルドーA ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ボルドー ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ジーファイン水和剤 ※2	F:NC・F:M01(M)	収穫前日まで	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(なすを除く)」の登録薬剤

<キャベツ> 根朽病

1. 本病は種子に付着した菌又は孢子で種子伝染する。また、罹病した作物残渣が土中に残り、土壌伝染する。
2. 苗床は降雨を防ぐため、ビニールなどで被覆する。また、多湿にならないよう管理する。
3. 定植時に苗の根を調べ、発病株は本ばに植え付けない。
4. 発病株は根部まで抜き取り、畑及びその周辺に残さない。また、堆肥等としてほ場に入らないよう注意する。
5. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフェットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫14日前まで	2回以内	散布
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫3日前まで	2回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫3日前まで	3回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫7日前まで	6回以内	散布
パレード20フロアブル	F:7(C2)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注

<キャベツ> 根こぶ病

1. 秋まきでは、は種期が遅くなるほど発病は少なくなる。
2. 気温、地温が18～25℃で最も発病が多い。
3. 本病の病原菌は酸性を好み、pH7.2以上のアルカリ性においては発育が悪い。
4. 石灰を施用して、土壌の酸度を矯正する(100～250kg/10a)。
5. 本菌は土壌の乾燥に対しては抵抗力が弱い。
6. 発病地ではアブラナ科作物を連作しない。
7. 被害株は抜き取り、畑及びその周辺に残さないようにする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
オラクル粉剤	F:21(C4)	定植前	2回以内	全面土壌混和
ネビリュウ	F:36(U)	は種又は定植前	2回以内	全面土壌混和
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	は種又は定植前	2回以内(但し、苗床では1回以内、本圃では1回以内)	全面土壌混和
オラクル粉剤	F:21(C4)	定植前	2回以内	作条土壌混和
ネビリュウ	F:36(U)	定植前	2回以内	作条土壌混和
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	は種又は定植前	2回以内(但し、苗床では1回以内、本圃では1回以内)	作条土壌混和
オラクル顆粒水和剤	F:21(C4)	定植前	2回以内	全面散布後土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
ランマンフロアブル	F:21(C4)	定植前日～当日	1回	灌注
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫14日前まで	1回	株元灌注

<キャベツ> パーティシウム萎凋病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。

ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

<キャベツ> べと病

1. 肥料が切れると発病が激しくなるので、十分施肥する。
2. キャベツは薬液の付着が悪いので、展着剤を加用する。
3. ジマンダイセン水和剤とリドミルゴールドMZは結球初期までに使用する。
4. 同一成分を含む異なる商品名の薬剤では総使用回数に注意する。
5. 銅水和剤はクレフノン200倍を加用すれば、薬害が軽減される。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ピシロックフロアブル	F:U17(U)	収穫前日まで	3回以内	散布
フェスティバルC水和剤	F:40(H5)・F:M01(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
プロポーズ顆粒水和剤	F:40(H5)・F:M05(M)	収穫14日前まで	2回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫3日前まで	4回以内	散布
リドミルゴールドMZ	I:UN/F:M03(M)・F:4(A1)	収穫30日前まで	3回以内	散布
レーバスフロアブル	F:40(H5)	収穫7日前まで	3回以内	散布
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
ドイツボルドーA ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ボルドー ※1	F:M01(M)	-	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤